

豪州マスタースで2位

ライフセーバー OB本多さん



2位の本多さん(左)と優勝のフォスターさん=全豪選手権マスタース

国際大会では全豪選手権にほぼ毎年出場しており、2006年にはBFで3位となった。

今年はい程の関係で同選手権マスタース(40、44歳の部)に出場。元世界チャンピオンである二十年來の友人モーガン・フォスターさん(ニュージールランド)に次ぐ成績を収めた。

伊豆・今井浜海岸での水難事故防止のボランティア活動には、学生時代から毎年夏に欠かさず参加している。本多さんは「ライフセービングは一生続けられる活動。頑張りますよ」とこやかに話した。

櫻井名誉教授 傘寿を祝う会

3月25日、櫻井通晴名誉教授(元経営学部教授)の傘寿の会が、生田キャンパスで開催された。櫻井教授は1937(昭和12)年3月4日生まれで80歳を迎えられたばかり。会には専修大学と本学定年退職後の城西国際大学の教え子ら58人が参加した。

専大校友を訪ねて

シャイン・オンキッズ 事務局長

ニーリー 美穂さん (平3文)



小児がんなどの重い病気と闘っている子どもたちと、家族を支えるNP法人「シャイン・オンキッズ」の事務局長を2年前から務める。このNPOは、病院と提携して数々の心のケアを、犬が病院で子どもたちに寄り添う動物介在療法「フアシリティッドツグ」や写真などで、い

づれも国内唯一の取り組みだ。そのほか、チャリティコンサートや入院中の学習支援も行う。「子どもたちを笑顔にしたい」とい

「闘病中の子どもたちを笑顔にしたい」

う思いが活動の原動力となっている。文学部英米文学科を卒業後、金融機関、テレビ制作会社、テレビ局、コサルティング会社などで活躍。英語の力を買われて香港駐在の経験もある。2003年から1年間、米国人の夫の仕事の関係でニューヨークで暮らした。生後9カ月の長女を抱えていたが、社会全体が子育てを支援する環境で、大いに助けられた。帰国して8年前には、生まれたばかりの長男が緊急入院。「闘病中の子どもを持つ親の気持ちばかりでした」と振り返る。「シャイン・オンキッズ」のキンバリー・フオーサイス理事長と知り合い、活動に共感。関わりを持つようになった。事務局長就任の話には「社会に恩返しをした」と心じた。米国滞在は専大時代にもある。長期交換留学生としてネブラスカ大学で1989年から1年間、「よく学び、よく遊び、ま」を教えられました。多様性への理解を学んだネブラスカ時代の体験が、背骨を貫いている。

「人がそれぞれ違うのは当たり前。その中でどうやって分かり合えるかを教えられました」